

横浜市病院協会 令和元年度第2回地域医療検討会開催結果概要

1 開催概要

国は、すべての医療機関が地域医療構想調整会議に参加することが難しい場合には、構想区域の実情に合わせて医療機関同士の意見交換等の場を組み合わせながら実施するなどして、より多くの医療機関の主体的な参画が得られるよう進めていくこととしています。

神奈川県は神奈川県病院協会に委託して各地域において検討会を立ち上げることとし、横浜市病院協会は今後の医療需要の増加を踏まえ、地域で必要となる医療機能等について、幹事病院を定めてエリアごとに地域医療検討会を平成30年度から開催しています。

本年度も引き続き開催し、各医療機関で話し合いを行いました。

2 議題等

(1) 情報共有・意見交換

- ① 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請について (◆)
(再検証要請対象の病院がある地域については対象病院のプランの方向性についても意見交換)
- ② 非稼働病床の活用について (○)
- ③ 病床利用率について (◎)
- ④ その他

3 会議の状況

東 部	開催日時	元年11月13日 (水) 18:00~	<p>(再検証要請対象： ██████████)</p> <p>◆ ██████████ のプランの見直し(軽度・中等症の内科救急を担うとするプラン)については、地域密着型急性期に相当するものであり、地域のニーズに沿ったものである。</p> <p>◆ 地域としては ██████████ のプランに合意する</p> <p>◆ 民間病院は地域に不足する機能を担って生き残ってきた。公的病院には民間病院の領域を侵さないで欲しいが、██████████ のプランについては問題ない。</p> <p>◆ 横浜地域は病院が少ない地域である。この地域においては、病床再編の必要はなく、慢性期をどうするかだけではないか。</p> <p>◆ 回復期リハは充足しつつあるが、療養病床が少ない</p> <p>○ 非稼働病床の現状が確認され、解消されつつあることが共有された。</p> <p>◎ 急性期の病床は、診療報酬の影響もあり、在院日数も短縮傾向である。在院日数が短縮されれば病床利用率に影響する。病床利用率だけではなく、ベッドの回転率も考えるべきである。</p> <p>◎ 低い病床利用率の場合もそれぞれ要因があり、直ぐに向上させるのも難しいという印象である。</p> <p>◎ 地域でニーズの高い救急患者を受け入れるためには、一定の余裕が必要である。急性期の回転を高めるためのベッドが必要である。</p> <p>◎ 横浜は1医療圏であるが、地域によって状況が異なる。また経年変化も踏まえて、議論する必要がある。</p>
	参加病院数	20 病院	

南 西 部	開催日時	元年11月15日 (金)19:00~	<p>(再検証要請対象：なし)</p> <p>◆公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請に関連して、国立病院機構の将来構想や今後の制度改革の見通しなどを共有した。</p> <p>○非稼働病床リスト上の病院は欠席病院を除き、稼働済であることが確認された。</p> <p>○有床診療所の病床活用の状況を確認する必要があるのではないか。</p> <p>○病床配分を受けた病院の整備計画進捗状況を共有した。</p> <p>◎現時点では機能分化が図られているが、今後急速に高齢者が増えていくので、高齢者に対する急性期機能が不足するのではないか</p> <p>◎高齢者救急が必要。急性期から地域包括ケアに転換して受け入れるのが良い。</p> <p>◎経営上の難しさはあるが、慢性期病床でも亜急性期の患者を受け付けていかななくてはならなくなるのではないか。</p> <p>◎療養病床は地域を超えて患者の受入要請を受けている。</p> <p>◎慢性期病床は急性期からの患者がたまっている状態。出口を開拓して、回転させていく必要がある。</p> <p>◎やる気のある老人保健施設、看取りを行う介護施設等も増えつつあるが、もっと増えると良い。</p> <p>◎当院では、増床ではなく在院日数の短縮を図って病床の有効活用を図っている。</p> <p>◎病床利用率は100%にはなっていない。療養病床が不足していることは分かるが、人材確保が課題になり、まずは利用率の向上を図るべき。</p> <p>◎慢性期病床が必要だが、既存の病床で十分である。無用な競争を招くことになる。</p> <p>◎地域での医療需要が増えることを踏まえて、増床を検討している。</p> <p>◎高齢者の医療をどこまでやるのか考える必要がある。在宅から急性期に入院して濃厚な医療の結果、療養病床で受け入れられない患者になっているのではないか。</p> <p>◎医療だけでは考えられなくなってきているのではないか。患者に対する医療と介護の関わり方を改めて考える必要があるのではないか。</p>
	参加病院数	17 病院	
南 部	開催日時	元年11月19日 (火)18:00~	<p>(再検証要請対象：■■■■■)</p> <p>◆■■■■■のプランの見直しの方向（急性期→回復期）は、区内の状況（人口減少、高齢者増）を踏まえたものである。</p> <p>◆区内で病病連携の会を開いており、■■■■■が地ケアに転嫁する等、機能分化が進んでいる。</p> <p>◆高度急性期病院としては、■■■■■の回復期病床の増加を歓迎する。</p>
	参加病院数	19 病院	

			<ul style="list-style-type: none"> ◆区内には療養病棟が少ない。検討していく必要がある。 ◆[]のプランでは、回復期に転換してもサブアキュートに対応するというが維持できなくなるのではないか。 ◆[]の急性期機能を残してほしい。全て回復期にシフトするというのは公的病院としていかがなものか。 ◆回復期・慢性期は民間病院が担っている。公的が担うと競合してしまう。 ○非稼働病床リスト上の病院の再稼働の見込みを確認した。 ◎病床利用率には未だ隙間があり、そこを有効活用すべき。増床は抑制する必要がある。
北東部	開催日時	元年11月21日 (木)15:00~	<p>(再検証要請対象： [])</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆[]のプランの見直し(軽度・中等症の内科救急を担うとするプラン)について、高度急性期・急性期を担う病院として歓迎する。 ◆[]と同様の機能を持つ民間病院だが、地域としては[]のこのプランが良い。 ○(出席病院の)非稼働病床の現状では解消されていることが確認された。 ◎緩和ケア病床(慢性期)の利用率が低く有効活用が課題である。 ◎療養病床は待ち患者がいる状態であり、慢性期は必要なのではないか。 ◎回復期は回転があり、利用率を上げるためには運用が難しい。 ◎専任者がベッドコントロールをして高利用率を確保している。可能な限り受け入れることを病院全体の意識としてするには時間がかかった。利用率を無理やり上げるのは難しい。 ◎男女別の病棟から混合としたことや複数診療科による運用など工夫している。 ◎患者が少なく利用率が低い診療科(産婦人科、小児科)がある。内科医の増により患者が増えてきている。 ◎高齢者救急後の受入病院(療養病床)が不足している。 ◎救急受入を確保するため、在院日数の短縮を図っているが、受入病院の確保が課題となっている ◎全国レベルでは患者が減少している。病床の有効活用で対応できるのではないか。 ◎皆が診たがらない患者はたくさんいる。
	参加病院数	16病院	
北部	開催日時	元年11月25日 (月)15:00~	<p>(再検証要請対象：なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請に関連して、風評被害などの懸念する意見があった。 ○(出席病院の)非稼働病床の状況、再稼働の課題が確認された。 ◎(急性期病院は)救急車の受入や診療所からの紹介患者の確保に努めている。 ◎診療体制が薄くなる準夜帯、深夜帯の受入について、常勤医と外部医師との連携が課題である。
	参加病院数	18病院	

4 まとめ

○公的医療機関等 2025 プランの具体的対応方針の再検証要請の対象病院の含まれる地域では、各病院の見直しの方向性に関して、意見交換を行いました。

■については、急性期機能として軽症救急を担うことが地域のニーズに沿ったものであるとして賛成する意見がありました。

■については、回復期機能への転換について、高度急性期の病院からは賛成、回復期の病院からは競合するため反対と、いずれの意見もありました。

○非稼働病床を有する病院の現状と再稼働の見込み、また再稼働への課題について共有されました。

○既存の医療資源の活用について異論はありませんでしたが、様々な意見交換がされました。

- ・病床利用率の向上に向けては、それぞれ病院毎に課題があり簡単に向上させるのは難しい。
- ・病床利用率を上げるには、人材の確保の問題がある。
- ・急性期病床の機能を発揮させるためには、回復期・慢性期病床が必要である。
- ・急性期病床は利用率だけではなくベッドの回転が重要である。回転を上げていけば増床しなくとも多くの患者を診ることができる。
- ・回復期・慢性期は既に病床利用率が高い。急性期病床の活用が重要である。
- ・医療だけにとどまらず、介護施設等との連携強化も必要である。

令和2年1月31日
横浜市病院協会

お知らせ

国の指示を受けた神奈川県からの要請により、公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請にかかる対象病院名は伏せて掲載しています。